

可能性を支える教育を目指して

聖学院大学 学長補佐（教育改革担当） 渡邊正人

聖学院大学

- ▶ 大学は埼玉県上尾市戸崎
- ▶ 1988年創設。
- ▶ 先行して同キャンパスに女子聖学院短期大学（1967—1998）。学校法人の淵源は 1893年聖学院神学校（プロテスタントキリスト教）
- ▶ 建学の精神 「神を仰ぎ 人に仕う」
- ▶ 現在、政治経済学部・人文学部・心理福祉学部、5学科。大学院3研究科。
- ▶ 在籍者数 学部2,068名 大学院41名（2019/5月現在）

聖学院大学の教育目標とタグライン

- ▶ 教育目標 = 良き隣人となる
- ▶ タグライン =
- ▶ 面倒見の良い大学 入って伸びる大学 (~2018)
- ▶ サンデー毎日 ランキング 16年連続ランクイン
- ▶ 一人を愛し 一人を育む (2018~)
- ▶ なぜ変えたのか → 学生の質の変質

面倒見が良いということと大学教育

- ▶ 面倒見の良さ = 原点は「アットホームな聖学院」
(短大の特徴として)
- ▶ →短大改組後の1998年以降のコンセプト
- ▶ 「面倒見」ということへの学内での反発

- ▶ 学生・教員・職員が一体となって学びの共同体を作ること。
- ▶ 当初から本学では「入って伸びる」の方を強調していた。

- ▶ しかし、2000年代終半「面倒を見て欲しい」学生が目立つようになる。

AO入試の登場

- ▶ その頃の課題
- ▶ →学びの指向性がある学生が欲しい
- ▶ →聖学院大学で学びたい学生が欲しい
- ▶ →学力の原点となる「興味関心」がある学生が欲しい

- ▶ あなたの学びたいことが学べる大学、という原点に帰る

聖学院大学のAO入試

▶ レポート型

必須かつ重要
レポート型向きか
を判断

ここに時間をかけ
る

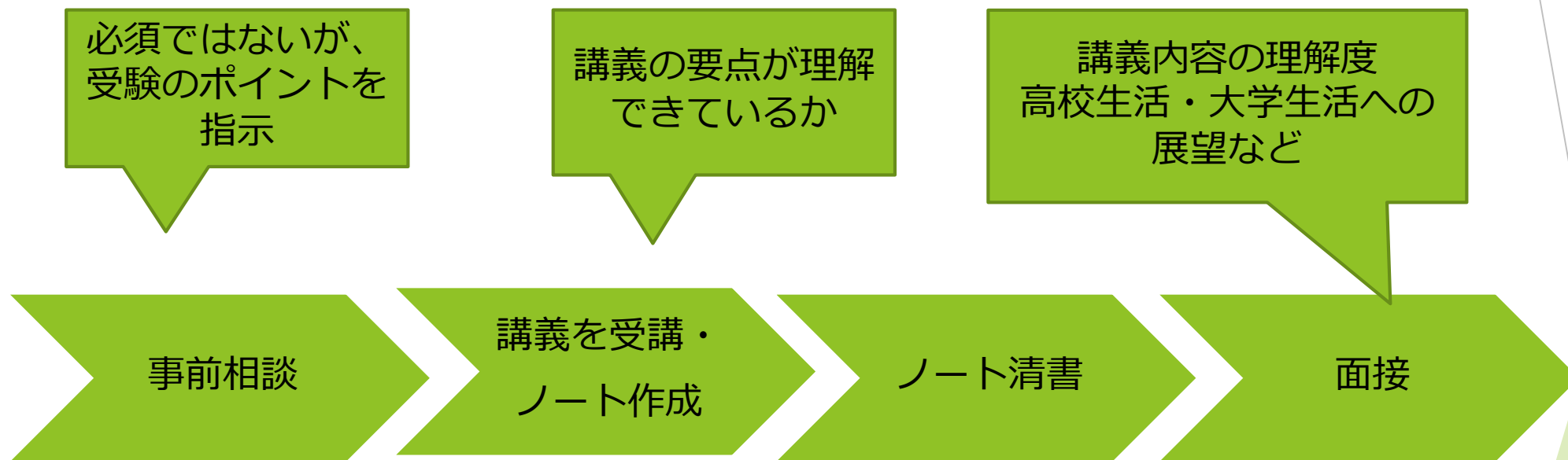
数度の書き直し
内容と同時に調査法・レ
ポートの書き方指導

事前相談

課題を決定

レポート作
成

AO入試講義型



成功している事例紹介

- ▶ 日本文化学科学生
- ▶ 高校時代→歴史に興味
- ▶ 受験→AOレポート型で戦国時代をテーマに選択
- ▶ 入学後→歴史のゼミに進み、卒論へ

- ▶ 他学科でも同様な流れ

入学前から始まる大学教育

- ▶ 高校段階での興味関心をそだてる
- ▶ OCでの個別相談の重視→時にAO入試への誘導
- ▶ 入学後のケアの必要性が事前に予想できるメリットも
 - 学力の不足→初年次教育・ラーニングセンターの設置で対応
 - 入学後の興味の変化への対応→転部転科・他学科履修のハードルを下げることで対応

事例2

- ▶ こども心理学科（改組後募集停止中）
- ▶ 高校時代→東日本大震災後、ボランティアに興味
- ▶ OC→高校の先生の紹介で来学、本学のボランティア活動の展示をみて受験を決意
- ▶ 学生時代→1年4月次の東日本大震災ボランティアツアーへ参加。以降、継続的に参加。3年次に文化祭で釜石フェアを開催。卒業論文も釜石を舞台にしたもの。
- ▶ 卒業後は福祉関係。現在、本学のボランティア活動支援センター勤務。

入って伸びる

- ▶ 何かしたいけれど、きっかけがつかめない学生
 - 大学が場の提供と後押し（ボランティア・学科や学内活動等）
 - そこで活動する先輩を見て、踏み出すきっかけとする。学科教員の働きかけも重要。ピックアップして、声かけをする。
 - 動く学生は自分から動くので、最初の声かけが重要という意識は、教員が共有
 - 「教員との距離が近い大学」という評価

今後のAO入試（2020年度を意識して）

▶ 聖学院大学アンバサダー入試（仮称）

必須かつ重要

課題について
思考力/判断力
/表現力を問う

「課題」について、プレゼンテーションまたはグループディスカッション

事前相談

課題を提示

プレゼン
テーション

必要書類：調査書・自己カタログ（ポートフォリオやそれに準じるもの）・
大学生活計画書

ねらい

- ▶ 志望理由が各学科のアドミッションポリシーに合致することと、学業との両立を前提とした上で、以下についても評価する。
- ▶ 「**聖学院大学に入って〇〇がしたい!**」
という受験生を求め
「聖学院大学アンバサダー」的存在になることを期待
※例「地域貢献分野」「部活分野」「学内活動分野」
「ゼミ分野」「図書分野」「ボランティア活動分野」

一人を愛し 一人を育む

- ▶ 今後何十年経っても揺らぐことのない、聖学院大学らしさを新たなタグラインで表現しました。学生一人ひとりとの距離感を大切に、近すぎず、遠すぎず、見守りながら、一人ひとりの可能性を育む大学であり続けるというプロミスでもあります。
- ▶ 聖学院大学は開学からキリスト教の精神に基づく人格教育を行っています。それは、神によって創造されたかけがえのない存在である学生を愛し、その魂の豊かな可能性を支えつつ、リベラルアーツを基盤とする専門教育をとおして各人の個性と能力を引き出すこと。それは、「一人の個性」が他者に仕える人になり、他者ととともに生きる人となる、現代の市民社会の各分野で貢献できる人物を育成することにほかなりません。
- ▶ (聖学院大学HPより)

高大接続における特別選抜の意義と課題 —広義の育成型入試に焦点を当てて—

- ▶ 「多様化」への対応という意義は大きい
一人一人を見て、育てる。
- ▶ 同時に
 - ①学力の多様化
 - ②学びへの意欲・興味の多様化
 - ③ダイバーシティとしての多様化
- ▶ 多様性の中で質保証の基準をどこへ置くのか？
という課題は避けがたい。